

昨日の学校の様子

まずは、昨日の学校の様子を2つ紹介します。

☆ 3年生英語 IBAテスト

福岡県では、ふくおかグローバル人材の育成に向けて、生徒の英語力育成と英語力の実態を基にした授業改善のために、英検と同様に英語能力を判定するテストとして毎年、中学3年生を対象に英語 IBAテストを実施しています。

問題は非公開のため、ここで紹介はできませんが、筆記25分、リスニング20分のテストとなっています。1校時に5クラス一斉にテストを受けました。

3年生に「テストはどうだった？」と聞いたところ、「英検をもっているので、簡単でした」「リスニングもけっこうできました」といった返事が返ってきました。全国テストや学力診断テストとは目的が異なるため、比較的解きやすかったようです。

これからの時代は、昨日紹介した情報活用能力（ICT機器の活用）や今日紹介している国際化に対応した英語力の向上等が必要とされます。これを機会に、英語力向上を生徒、教師、ともに目指していきたいと思いました。



☆ 筑紫区保健体育教育研究会

筑紫地区23校の中学校から保健体育の先生方が本校に集まり、よりよい指導法についての実技講習会が行われました。講習の種目は、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、陸上競技の4種目でした。昨日は気温が34度を超える暑い日でしたが、先生方は楽しく熱心に、研修に励んでいました。

どの教科にも当てはまることですが、授業の指導法には、限りがありません。その時、その生徒に応じた最善の指導を模索していかなければなりません。それは昔からの指導であったり、新しい指導であったり、様々です。私たち教師は、教科指導において常に最善の授業を求めて授業準備をしています。

子ども達の「分かった」「できた」「楽しかった」等の声や笑顔を求めて、これからも、日々、より良い授業づくりに励んでいきます。



○ 9月14日分 『おまけ：昭和レトロクイズ』の解答

次の1～3の機械を見たことがありますか？ 使ったことがありますか？
名前がわかりますか？

1. (タイプライター)



英文しか打てませんが、キーを押すと、その文字が印字される大変便利な機械でした。

外国の方で、相当早く打つことができる方もおられました。

とても普及しており、映画などでも登場するシーンが見られます。キーをたたき印字される時の音が特徴的でした。

海外では普及していましたが、パソコンの登場によって徐々に使用する人が減っていきました

2. (和文タイプライター)



タイプライターに比べ、なかなか操作が難しいのが和文タイプライターでした。アルファベットは26文字しかありませんが、漢字はたくさんあります。

常用漢字だけでもおよそ2000文字あります。

漢字変換機能がない和文タイプライターは、写真ではわかりにくいのですが、漢字を探し出し、そこに棒を移動させ、ボタンを押すとその文字が印字されるものです。1文字打つのに時間がかかりますので、文書を

完成させるには、膨大な時間がかかるものでした。私も少しだけ使ったことがあります。文字を探し出すのに苦労した記憶があります。

30年以上前に、ごく一部のベテランの先生が使っているのを見たことがあります。

3. (ワードプロセッサ・ワープロ)



和文タイプライターの後に登場したワープロは当時画期的と言われていました。タイプライターと同じキーボード配列で、今と同様、ローマ字で入力し漢字変換することで、日本語の文書を作成することができました。先生方も個人で購入し、使用する人が次第に増えました。ワープロの登場によって、『手書き』をする人は減っていきました。

1980年代から90年代にかけて普及しました。

◇ 今回のクイズは、いかがでしたでしょうか。時々、時代の変遷について、老人のようにつぶやいてみたいと思います。